

週 報

こひつじ

第41巻 20号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

多くの証人たちに囲まれて

その二 前に置かれている競走をよく走る

では、そういう希望を持ってい
 る私たちは地上の人生をどのよう
 に生きるべきなのでしょう。
 それを教えているのが次の言葉
 です。

「こういうわけで、このように多
 くの証人たちが、雲のように私た
 ちを取り巻いているのですから、
 私たちも、いっさいの重荷とまつ
 わりつく罪とを捨てて、私たちの
 前に置かれている競走を忍耐をも
 って走り続けようではありません
 か」(ヘブル 一二の二)

「多くの証人たちが、雲のように
 私たちを取り巻いている」

という表現から思い浮かぶのは

競技場の光景です。

つまり先に召された人たちは、
 すでに自分のレースを走り終え、
 競技場の観覧席にすわっています。

そして、今なお、この地上におい
 て走っている私たちを「雲のよう
 に取り巻いて」応援してくれてい
 るというのです。

観覧席にいる彼らの私たちへの
 期待は大きいでしょう。

そこで私は思います。すでに天
 国に行った家族に対する一番の義
 務は、彼らの期待に答えて、この
 地上の人生を、よく生きることだ
 はないかと。

私たちには、走るべき行程が前

にあり、今日をどう生きるか、明
 日をどう生きるかの決定がまだ多
 く残されています。

それらの機会を有効に用いて、
 後悔しない人生を送ることが、天
 に召された家族に対する私たちの
 なすべき最善ではないでしょうか。
 今日をむだに生きてはいけない
 のです。

では、彼らの応援に答えて私た
 ちはどのように走ったらよいので
 しょう。

聖書はこう言っています。

「いっさいの重荷とまつわりつく
 罪とを捨てて」と。

運動会で走るとき、どんな服装
 をするでしょうか。リュックを背
 負ったり、オーバーコートを着た
 りするでしょうか。いいえ、でき
 るだけ身軽な服装をするはずで
 す。

やがて死を迎えようとするとき
 も同じです。私たちは身辺整理を
 するでしょう。そしてほんとうに

大切なものは何かと考えます。

そのときわかるのは、大切だと
 これまで思っていたものの多くが、
 実はそうではなかったということ
 です

旧約聖書に登場するソロモンは
 人の死にゆく姿を見て言いました。

「母の胎から出て来たときのように、
 また裸でもとの所に帰る。彼
 は、自分の労苦によって得たもの
 を、何一つ手に携えて行くことが
 できない」(伝道者の書五の一五)

伝道者パウロも言いました。

「私たちは何一つこの世に持って
 来なかったし、また何一つ持って
 出ることもできません。衣食があ
 れば、それで満足すべきです」(一
 テモテ六の七、八)

驚くのは、人生の最後は、金持
 ちも貧乏人もみな同じだというこ
 とです。

人はだれも、たった一つ、自分
 がだれであり、どんな人間である
 かということを除き、他はすべて
 を残してこの地上を去るのです。

イエスも、弟子たちを伝道に送
 り出すとき、言われました。

「財布も旅行袋も持たず、くつも
 はかずに行きなさい」

勧められているのは多くの物を
 持たない生活です。

イギリスの詩人ワーズワースの
 理想も簡素な生活でした。彼はそ

れをこう歌いました。

「暮らしは低く、思いは高く」

Plain living,

and high thinking

貧しくても高い志を持って生きることこそ、人生の本質があるというのです。

人生をよく生きるとは、そういうことなのではないでしょうか。では、レースのゴールは何でしょう。

「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」

と聖書が言うように、目標はイエス・キリストです。

私たちはイエスに喜ばれるために走るのです。

イエスは、私たちが、この人生をどう生きるかをご覧になっています。すでに召された者たちも、競技場の観覧席にすわり、応援してくれています。その期待に応えることが私たちの人生の目的なのだと思います。

精神科医であり、クリスチャンであったトゥルニエは、生まれて二ヶ月後に父を失い、六才のとき

に母を亡くし、孤児となりました。

したがって、その後の彼の人生は、天国で両親と会うことを目的としたものだったといえます。

そこで彼は両親に恥ずかしくない人生を送りたいと思います。そのために二つの決断をします。

第一は、自分の人生を神にささげる。敬虔なクリスチャンであつた両親は何よりもそれを喜んでくれると考えたからでした。

第二は、隣人に役立つ人生を生きて。そのために医師となる道を彼は選びます。

天国での再会の希望が、以上のような決断に少年トゥルニエを導いたのです。

私たちもまた、イエスに喜ばれ、先に召されたものたちの期待に応えるために、よりよい人生を送る決断をしたいものだと思います。

(終)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から。

第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。

○今週(五月二十八日)ベイヤード家族が到着します。宿泊はこひつじ館二階です。礼拝後、簡単な

清掃ができればと思います。お手伝いくださいる方があれば感謝です。

先週の礼拝

○司会は合志文利さん。

○説教は米村牧師が、ルカ二章

から、イエスの成長は、知識でも才能でもなく、知恵を得ることを目標としたものだったと語りました。

○久しぶりの合同礼拝でした。コロナ禍前は、いつもがこうでした。讃美歌も多く歌いました。

同じ教会に来ながら、なかなか会えないでいた方たちとも先週は会えました。食事に残った方たちもいつもよりは多かったようです。

○合同礼拝は、しばらくは月に一度ですが、コロナなどの感染症がもう少し収まってきたら、毎週行なえるようになるかと思えます。

先週の礼拝参加者

○礼拝参加者は、八九名(男三、女五六)。それに子どもが九名、合わせて九八名でした。

○インドネシアからふたりの青年(ガレンさんとリツキーさん)、台湾からひとりの女性(ユンさん)が初めてつどつてくれました。

次週の礼拝案内

次週(六月一日)の礼拝は合同礼拝です。午前一〇時半から始まります。アメリカから真紀ベイヤード家族が来て、チェロやピアノの演奏、証などをやってくれます。

牧師の予定の訂正

静岡県浜松市で行なわれる「ジョン・ボストロム宣教師を偲ぶ会」は六月二十九日(日)からと先週の週報でお知らせしましたが、それは誤りで、七月六日(日)〜八日(火)に行なわれます。米村牧師夫妻はそれに出席の予定です。